

専任教員の教育・研究業績

所属 体育学部	職名 講師	氏名 吉沢 一也	大学院における研究 指導担当資格の有無	無		
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
2 作成した教科書、教材、参考書						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
ラウンドテーブル「高等教育における学習支援についての諸問題——歴史的視点にもとづいた検討」大学教育学会第35回大会 於東北大学	2013年6月	高等教育における学習支援のあり方についての話題提供と検討				
講演「大学授業の現場から見たブレFD」 大学院生のための教育実践講座2013——大学でどう教えるか 於京都大学	2013年8月	京都大学の院生・0DのためのFD講座				
講演「大学授業の現場から見たブレFD」 大学院生のための教育実践講座2014——大学でどう教えるか 於京都大学	2014年8月	京都大学の院生・0DのためのFD講座				
発表「基礎的英文法習得に特化した授業の効果と学生の評価」(TOEIC BridgeテストとIRTテストを用いた検討) 日本リメディアル教育学会第4回中国・四国支部大会	2014年10月	英語の授業の効果測定と学生の自己評価に関する報告				
講演「大学授業の現場から見たブレFD 2015」 大学院生のための教育実践講座2015——大学でどう教えるか 於京都大学	2015年8月	京都大学の院生・0DのためのFD講座				
4 その他教育活動上特記すべき事項						
II 研究活動						
著書 (単著)						
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月	
著書 (共著・分担執筆)						
題目/書名	著者/編者	初(始)頁～終頁	発行所	発行地	発行年月	
スクリプナー思想大辞典	共同翻訳		丸善出版	日本	平成28年1月	
原著論文 (審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。)						
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月	
ソクラテスのダイモニオンは道徳的判断に寄与しているのか	吉沢一也	古代哲学研究	37	19頁～34頁	平成27年5月	
総説						
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月	
その他 (「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入)						
区分	題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月
実践報告	2015～2017年度大阪体育大学学習支援室活動報告	共 福田、黒木、吉沢	大阪体育大学紀要	50	155頁～168頁	平成31年3月
実践報告	スキル開発型英語授業と初期学力の関係に関する研究	共 吉沢一也、工藤俊郎	大阪体育大学紀要	48	41頁～47頁	平成29年3月
実践報告	2013年度および14年度大阪体育大学学習支援室活動報告	共 吉沢一也、藤田大雪他	大阪体育大学紀要	47	193頁～206頁	平成28年3月
学会発表 (「国際学会」、「国内学会 (一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等)」、「研究会」等区分を記入)						
区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名	
研究会	平成30年	第3回正義論ワークショップ	ソクラテスとプラトンによる「通俗的」正義への関与について	名古屋工業大学	吉沢一也	
研究会	平成30年	第3回正義論研究会	ソクラテスの正義とプラトンの正義	名古屋工業大学	吉沢一也	
研究会	平成28年9月	第1回正義論研究会	プラトンの正義論	名古屋工業大学	吉沢一也	
国内(一般演題)	平成27年8月	古代哲学研究談話会	ソクラテスのダイモニオンは道徳的判断に寄与しているのか	京都大学	吉沢一也	
科学研究費等の取得状況						
科学研究費/その他の助成金/外部資金						
区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額 (期間内の総額)	
科学研究費	基盤研究C	ソクラテスから新プラトン主義にかけての倫理思想とその現代的意義に関する基礎研究	代表	2019. 4-2022. 3	3900千円	
科学研究費	基盤研究B	西洋中世の「正義論」が持つ哲学的意味と現代的意義に関する基礎研究	分担	2016. 4-2019. 3	16380千円	
特許						
特許名称	発明者/出願人	出願日/出願番号	公開番号	取得した場合 ⇒	公告・特許番号	国

Ⅲ 加入学会および社会における活動					
期 間		内 容			
加入学会					
平成11年4月～		古代哲学研究会会員			
平成18年4月～		関西哲学学会会員 2017年4月～2017年10月まで大会実行委員			
平成19年4月～		日本西洋古典学会会員			
平成22年4月～		日本リメディアル教育学会会員 2011年同学会誌編集委員 同年関西支部実行委員 2012年全国大会実行委員			
社会的活動					
平成28年8月、平成29年9月		大谷大学「学習支援に関する取組の意見聴取会」学外評価者			
平成29年12月～平成30年5月		大谷大学 研究倫理関係委員会 外部調査員			
平成30年9月		大谷大学 3つのポリシーに基づく取組の意見聴取会 学外評価者			
Ⅳ 管理活動					
期 間		内 容			
委員会活動					
平成25年4月～		学習支援室運営委員会委員			
平成25年4月～平成27年3月		図書委員会委員			
平成25年4月～平成27年3月		キャリア支援委員会委員			
平成27年4月～平成29年3月		学部学生委員会委員			
平成31年4月～		体育学部教務委員会委員 体育学部カリキュラム委員会委員			
特別プロジェクト活動					
平成29年4月～平成30年3月		ブランディングプロジェクトプロジェクトメンバー			
Ⅴ クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	男女サッカー 部		2. 部長	2016.4～2019.3	3. 部員数 約270人
4. 現場指導の頻度	⑤ ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数： 男3女3 回		延べ日数： 男6女2 週間		
6. クラブの競技力向上への取り組み	④ ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	① ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	② ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)					
開催期間	大会名		成 績	場 所	
2016年	(男子) 全日本大学サッカー選手権大会		3位	東京	
2017年	(女子) 全日本大学サッカー選手権大会		3位	東京	
2018年	(男子) 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント		準優勝	大坂	
2018年	(男子) 全日本大学サッカー選手権大会		3位	東京	
Ⅵ 賞罰(職務に関する賞罰)					
年 月	受賞等機関名		内 容		備 考